

舞台は世界だ!

# Go! Global

2015 KGM  
グローバル人材  
育成プログラム  
レポート Vol.6



アラスカ研修 Aurora House にて  
撮影：オーロラ写真家 金子孔俊さん

**KANTO GAKUIN MUTSUURA  
JUNIOR&SENIOR HIGH SCHOOL**

ますます進むグローバル化は、加速するボーダーレス化とも言えます。中高一貫校での6年間は、入学から10年後、さらには20年後の社会を見据えて準備する大切な時と場です。ボーダーレスに向かう社会を早期に意識し体験する学習環境づくり。関東学院六浦は60周年を迎えた今、「若く純粋な想いを道へ.....将来を世界に繋ぐこと」が新たな使命と考えています。





# マレーシア SMJK KATHOLIK との交流会



「今度マレーシアの学校と交流会をすることになったからね。」と3年5組の生徒に伝えたのは、10月下旬。その後、六浦祭を挟み、11月12日(木)の交流会まで実質約1週間という短い期間で準備をしました。

当日、校門で SMJK KATHOLIK の生徒をクラス全員が出迎え、会場となる多目的ホールへと案内しました。事前に SMJK KATHOLIK の生徒1人に対して本校の生徒1人のバディを決めていたのですが、最初はお互いに緊張してなかなかコミュニケーションを取れない様子でした。

当日はすべて英語です。それぞれの学校のスピーチと学校紹介から始まり、SMJK KATHOLIK の生徒たちが民族衣装を着てダンスを披露してくれました。その後のプログラムはすべて本校の生徒たちが企画したものです。まずは、空手と合気道の紹介。続いて、外に出てドッチビー大会。このあたりから打ち解ける様子が随分見られるように

なってきました。さらに多目的ホールへ戻った後は、ダンス、クラス紹介も兼ねたチーム対抗のクイズ大会、羽子板大会と盛りだくさんのプログラムでした。そして記念撮影をし、3年5組の生徒は一部を除いてお別れです。その後はバディの生徒が茶道部の待つ茶室へと案内し、そこで茶道部員が点てたお茶と一緒にいただき、校門で見送りをしました。

多民族国家マレーシアでは各民族間のコミュニケーションが英語で行われているため、SMJK KATHOLIK の生徒たちはとても流暢に英語を話します。3年5組には元々英語が得意な生徒や諸外国に興味のある生徒が多いのですが、その流暢な英語に衝撃を受けたようです。しかし、本校の生徒も臆することなく、積極的に英語でコミュニケーションを取っていました。また、交流会翌日の朝のホームルームでは、「楽しかった!」「マレーシアに行ってみたくと思った!」「もう昨晩からメー

ルをしているよ!」との声が多く上がりました。同じアジアで生きる同世代で交流を持ったこの日の体験が、将来の彼ら彼女らの生き方の糧となることを願ってやみません。

(3年5組担任 柳澤 聖)



## My friends in Malaysia!

I'd like to talk about my experience with visiting junior high school students from Malaysia to KGM.

I didn't know what the situation would be like because I had never met a Malaysian person before. My class didn't know what we should talk about or show them about Japanese culture.

Each Malaysian student was put together with one "buddy" for a few hours.

At first we were all so nervous. Of course they couldn't speak Japanese and we couldn't speak English very well.

Although we speak English regularly in our English classes, we were worried whether they would understand us. But after we met, we were so happy because we could communicate. Of course, we couldn't use difficult language but we spoke with simple English and used gestures.

I realized that even with only simple English we can share your feelings. By being active and positive, we can communicate with people from around the world.

(3-5 Anna Takagi)



# カンボジア サービス・ ラーニング研修

今回で2度目のカンボジア サービス・ラーニング研修。2015年12月21日(月)~27日(日)の7日間で行いました。キエンスワイの中学校やタケオの小学校、SATO JAPAN CENTERでの教育交流プログラムで、「どうしたらカンボジアの子供たちが喜んでくれるのか?」を何ヶ月も前から皆で考え、準備して臨んだ研修です。「ちぎり絵」「運動会」「大縄大会」「クリスマス会」など、生徒達は一生懸命に取り組む、子供たちの笑顔に触れることができ、カンボジアと日本のつながりを感じる事ができた素晴らしい機会となりました。

帰国後の反省会では、「英語・クメール語・日本語では意思疎通ができないカンボジアの子供たちと、どうやってコミュニケーションをとったのか?」という話し合いで、「とにかく一生懸命にやる」「できたときは一緒に喜び」「笑顔で対応する」の3つでコミュニケーションがとれたという意見になりました。「一生懸命な姿勢」「喜びの共有」「笑顔」がコミュニケーションであるという結論に、本当に素晴らしい学びをさせていただいていると心から感謝しています。

引率教諭 長塚・九渡・石川



私は、昨年に続き2度目のカンボジア サービス・ラーニング研修参加でしたが、今回は前回より学べたことが多かったと感じます。

4日目の小学校での運動会は、おそらく大成功ではないかと思えます。カンボジアの子供達も大いに喜んでくれたし、自分たちもそれ以上に楽しく、最高の時間になりました。その後の大縄大会はさらに大盛り上がりで、子どもたちは3人一緒に跳ぶなどして、大変楽しそうでした。

クリスマス会では、「サンタクロース」の説明から始めました。絵とクメール語の説明を書いた画用紙を事前に準備し、皆で説明したあと、サンタクロ

ースに扮装した後輩が登場し、子供たちにプレゼントを配りました。サンタクロースが登場したときは、教室の盛り上がり頂点に達しました。きっとサンタを信じてくれたと思います。よかったです!!

今回のサービス・ラーニングに参加して、改めて世界には自分と全く違う環境にある人たちが居ること、そして自分も互いに理解しあい、助け合うことができるようになりました。次の機会も、ぜひ積極的に参加したいと考えています。また、参加した2回の経験を活かして、これから日々大切に過ごしていきたいと考えています。

(3年1組 木原空海)

